

越前町地震防災 地域の危険度マップ

平成23年4月

地域の危険度マップは、地震によるゆれによって発生する建物被害の分布を表したものです。具体的には、「ゆれやすさマップ」で示した強さのゆれとなった場合に、約50mメッシュ単位で分割した地域に建っている建物が全壊する割合を表しています。

全壊とは

全壊	半壊	一部損壊	無被害
住宅の全体、もしくは一部の階が全て倒壊している。 居住のための基本的な機能を失った状態を指します。	居住のための基本的な機能の一部を失った状態を指します。	壁面の亀裂が生じている。外装に若干の剥離がある等の状態を指します。	被害が生じていない状態を指します。

資料出所：内閣府「災害に係る住家の被害認定基準運用指針」、中央防災会議「東南海地震・南海地震等に関する専門調査会」

地域の危険度マップの作り方

地域の建物棟数と想定される最大震度から推定される構造別建築年別の建物全壊率を掛け合わせ、各地域で想定される「全壊する建物の割合」を推計し、地域の危険度として表示します。

ゆれやすさマップ（最大震度分布）

構造別建築年別の建物データ

木造	木造	木造
S34年以前	S35~S55年	S56年以降
非木造	非木造	非木造
S46年以前	S47~S55年	S56年以降

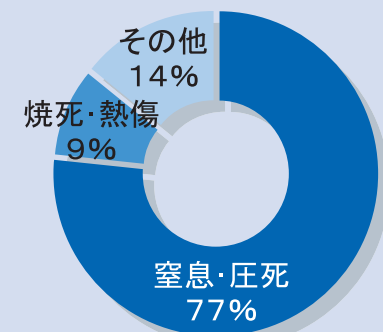
計測震度と建物全壊率の関係

メッシュ別に建物全壊棟数率を算出 → 算出結果を地域の危険度として表示

耐震化の重要性

地震による死亡・ケガの原因は？

阪神・淡路大震災での死者のうちの約8割は地震直後の家具、建物による圧死といわれています。



阪神・淡路大震災の死亡原因

出典：『阪神・淡路大震災調査報告 総集編』（阪神・淡路大震災調査報告編集委員会、2000年）、厚生省大臣官房統計情報部「人口動態統計からみた阪神・淡路大震災による死亡の状況」（1995.12）より作成

**皆さんの生命や財産を守るためには、
住宅・建築物の耐震化が極めて重要です。**

次のような項目に心当たりがある住宅は、特に要注意です。

- ドアあるいは窓を閉めたとき、枠と家具の間に著しい縦長の三角形の隙間があいている。
- ドアあるいは窓の建付けが悪く、建具の開閉が変形のために思うようにいかない。
- 窓の敷居が著しく水平を欠いている。
- 建物の壁面が傾斜していることが、見ただけでわかる。
- シロアリの成虫（4枚羽根のついたシロアリ）が浴室から飛び出す。
- 屋根の棟あるいは軒先が波打っている。
- 壁に長い斜めのひび割れが入っている。

**耐震性の判断には建築の専門知識が要求されます。
目立った症例が無くても、耐震診断を受けることが重要です。**

耐震診断について

住まいの耐震性がどの程度か調査する「耐震診断」。いわば人間の「健康診断」。地盤の状況や基礎の状態、上部構造として、壁の強さや配置、接合部の状況、劣化状況等を調査。上部構造は評点化されて、耐震改修工事の必要性があるかを判定します。「耐震診断」には、一般の方が自己診断できる『誰でもできる我が家の耐震診断』と、建築士などの専門家が行う『一般診断法』と『精密診断法』があります。

